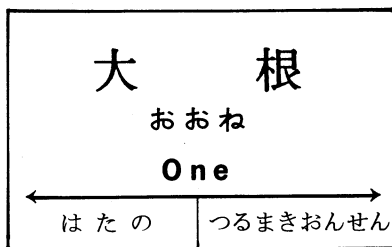


駅名表示、その他に関する調査報告

現代日本語研究会

— 調査へのきっかけ —

東京の大手私鉄の1つ小田急線で西へ50キロばかり行ったところに、かつて、「大根」という名を持つ駅があった。現在の「東海大学前」駅の前身である。その駅がまだ「大根」と呼ばれていた当時、今回この調査に加わったメンバーの何人かがそこを利用していた。そして、そのホームで駅名表示板を見るたびに、メンバーの間でその表記のあり方が話題になっていた。今はもう使われていないその表示板を表記上注意深く再現すると、次の図のようになる。



(上りホームの場合)

はじめてこの駅に降り立って、この表示板を見た人はたいていこんな経験をしている。

まず、表示板の最上段に書かれた漢字を見て驚く。珍しい駅名に一瞬「まさか「ダイコン駅」ということもないだろうし……」などと首を傾げる。しかし、そういう時のために、たいてい

の駅にはひらがな表記も併せて表示されているから便利である。この駅の場合、正しいひらがな表記はその意味で十分に目的を果たし、人々に「おおね駅」であることを教えてくれる。

さて、問題は次の段に書かれた横文字である。ひらがなで駅名を知って歩き出そうとした人も、たいていそれを見て、もう一度つくづくと表示板を見ないではいられない。これでは「ワン駅」か「オネ駅」としか読めない。今かりに漢字もひらがなも読めない乗客が、この駅に降り立った時、どのように読むであろうかなどと考えながら改札口に向かうわけである。

こうした大根駅で見かけた駅名表示板の中のローマ字表記の問題をきっかけに、単にローマ字表記だけではなく、漢字、かな文字、それらに伴う符号までを含めて表示板上の表記のあり方を、できる限り多くの路線について調べてみようとい

うことになった。そういえば、停車中の複数の電車のうち、どちらの電車に乗り込めばより早く発車するのか、あるいは、どっちに乗れば目指す駅までより早く着くことができるのか、外国人ならずともたいへんわかりにくく困った経験をしたことがあるのを思い出す。それは、私たちが普段利用している路線の表示のあり方と、たまに利用する路線のそれとが違っていただけではなかったろうか。

今回、会員みんなの協力を得て、各自の通勤途上を利用しつぎのような調査をした。以下はその結果に関する報告である。

I 調査対象路線

- ㉠ 東急・新玉川線
- ㉡ 東急・田園都市線
- ㉢ 京王線
- ㉣ 小田急線（小田原線）
- ㉤ 西武・新宿線
- ㉥ 東武・伊勢崎線
- ㉦ 地下鉄・丸の内線
- ㉧ 東京モノレール
- ㉨（東日本鉄道）中央線
- ㉩（東日本鉄道）埼京線
- ㉪（東日本鉄道）京浜東北線
- ㉫ 近鉄・奈良線
- ㉬ 阪急・宝塚線

II 調査項目

1. 出発の順序を示す表示について
2. 速さを示す表示について
3. 始発駅内および途中駅の表示板にある進行方向を示す矢印について
4. 文字、符号の表記のしかたについて
 - (1) 各文字の上下の順序

- (2) 各文字の大きさの順序
- (3) 次駅を示す文字の種類
- (4) ローマ字表記について
- (5) 送りがな「が」「ガ」「ケ」「ツ」の有無
- (6) 送りがな「の」「ノ」の有無
- (7) 英語・ローマ字文字のまぜ書き、および、外来語表記のいろいろ

1. 出発の順序を示す表示

- Ⓐ こんど／つぎ
- Ⓑ こんど／つぎ
- Ⓒ 先発／次発／次々発
- Ⓓ 先発／次発／次々発
- Ⓔ こんど／つぎ／そのつぎ
- Ⓕ こんど／つぎ／そのつぎ
- Ⓖ こんど／つぎ
- Ⓗ こんど／つぎ
- ① ①ライトがついた方が先／消えた方が②または、先発／後発
- Ⓙ こんど／つぎ
- Ⓚ こんど
- ① 先発／次発／次々発
- Ⓜ 先発／次発

注(1) 上記のうちⒽの東京モノレールについては、場所によって表示が異なる。

改札口の上およびホームの階段をおりたところは「先発／次発」、発車ホームは「こんど／つぎ」である。

注(2) 中央線では新しい試みで、先に出発するものにはライトをつけて知らせている。しかし、他の路線と同じく、ホームによっては、先発／後発で示している。

㉠ 京王線の場合



写真-1

㉡ 西武新宿線

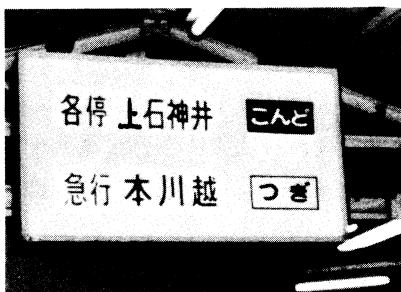


写真-2

今回、調査の対象とした13の路線の中では、漢字表示はひらがな表示より数が少ない。しかし、漢字の意味が理解できる者にとっては、漢字の方がわかりやすいと思う。その反面、漢字のわからない人々には目的を果たせない点が問題として残る。ひらがな表示は、その点では子供にもわかりやすい。今回の調査結果を見ても、新しい表示はひらがな表示である「こんど」「つぎ」（「そのつぎ」）の方に傾きつつあるように思われる。

ところで、子供にもわかりやすく工夫されたせっかくのひらがな表示「こんど」「つぎ」（「そのつぎ」）ということばは、このまま定着させるにふさわしい表現であろうか。「さきに発車」「あとから発車」の意味を十分に伝えてくれるだろうか。ある雑誌の質問欄に、ある読者が次のように質問していた。注(1)

「以前から気になっていたのですが、地下鉄のホームで電車の到着を示すプレートに、こんど〇〇行 つぎ〇〇行 というのがあります。ちょっと見ただけでは、どちらが先に来るのか分かりません。本来、これらのことばにはどのような用法の違いがあるのでしょうか」と尋ねている。これに対して、地下鉄広報課の担当者は、

「こんどの方が、つぎよりも先に来る電車の意味。つまり、こんどとは、今しもホームに入ってきて（あるいはもう入っていて）発車しようとする列車のことを指し、つぎというのが、その次に入ってくる列車と解釈している」と述べている。

さらに、ことばの専門家の立場から玉村文郎氏は『新明解国語辞典』の中の、「こんど」の項をとりあげ、次のように説明しておられる。—「こんど」には3つの意味があること。質問者の指摘どおり「こんど」には「この次」との同義も認められること。しかし、「こんど」にはもともと「このたび」「いま」の意味があるのに対し、「つぎ」の方は「あとにすぐつづくこと（もの）」という意味であるため、地下鉄のように両者を使い分けることになったのだらうとのこと。また、日常普通の言い方としては、複数の表現の間に差がほとんど見られない、あるいは、同じ意味として使っているものでも、この場合のように専門分野では意味の差をつけて使い分けることがあるものだと。

そういう事情を知ると、「こんど」「つぎ」の表現が決して誤りでないことはわかったが、すぐにどちらが先か判断したい場合に、これが親切で適切な表示と言えるかどうかの疑問は残る。もっと全国のより多くの路線に調査の対象を広げれば、もっとなにかわかりやすい、適切な表示が出て来たかもしれない。

注(1) 月刊『日本語』'88年7月号

2. 速さを示す順序

- Ⓐ ①急行 ②快速 ③普通
- Ⓑ ①急行 ②快速 ③普通
- Ⓒ ①特急 ②急行 ③通勤急行 ④快速 ⑤通勤快速 ⑥各駅停車
- Ⓓ ①特別快速 ②急行 ③準急 ④各停
- Ⓔ ①特急 ②快速 ③急行 ④準急 ⑤各停
- Ⓕ ①特急 ②快速 ③準急 ④普通
- Ⓖ すべて各停
- Ⓗ すべて各停
- ① ①特快 ②通勤快速 ③快速 ④各停
- Ⓙ ①通勤快速 ②快速 ③各停
- Ⓚ ①快速 ②各停
- Ⓛ ①特急 ②快速急行 ③急行 ④準急 ⑤普通
- Ⓜ ①急行 ②普通

◎の京王線の場合、ホーム放送は「各駅停車」と言い、ホーム上部にある先発、次発を示す表示板では「普通」と表示されていて不統一である。また、㊦の京浜東北線の場合、各停の山の手線と並行して走っている。そのため、各停の必要な人々は山の手線に乗り換えればよいわけで、昼間はスキップして止まっている。それを「快速」と呼んでいるのであり、スキップしない時間帯はすべて「各停」となっている。つまり、同時時間帯に両者が走ることはない。

ここで問題になるのは、㊦㊧㊨などと㊩の西武新宿線、㊪の近鉄奈良線の速さの用語と順序が一致しないことである。急行と快速の速さの順序は、㊩㊪以外は急行の方が快速より速いのだが、㊦は快速が急行より速いし、㊪は快速急行という名ではあるが急行より速いのである。

さらに、◎では快速、通勤快速の順が㊪では通勤快速の方が快速より速く、順序が逆である。この両線は一部平行して走っており、東日本鉄道の方が運賃が高いことから◎の京王線にのりかえる人も出たところで、日常生活で同じ人が両線を利用する可能性は高い。少しでも速い路線をと考えた際、乗客は混乱してしまうだろう。

また、◎の急行と通勤急行、快速と通勤快速、㊪の快速急行と急行など、その線に平常乗りなれていない人にはわかりにくい区別である。もう少しわかりやすい用語はないのだろうか。

3. 始発ホームにおける矢印方向

- ㊦ 進行方向
- ㊧ 進行方向
- ㊨ なし
- ㊩ 進行方向
- ㊪ 両方向（写真4）
- ㊫ 両方向（写真3）
- ㊬ なし
- ㊭ 該当表示板なし
- ㊮ 両方向

途中駅ホームにおける矢印方向

- 進行方向のみ
- 進行方向のみ
- なし
- 両方向にあり
- 進行方向のみ
- 進行方向のみ
- 進行方向のみ（写真6）
- 進行方向のみ
- 両方向

① ?

② なし

③ 進行方向のみ

④

両方行

なし

両方行 (写真5)

両方行

いくつか矢印のない線がある。まちがいに、自分の行きたい方向の電車のくるホームにいるときは、矢印はなくてもかまわない。自分の行きたい方向が右か左かわからず、自分ののる電車が右からくるか左からくるかわからないとき（地下鉄から地下鉄の乗り換えの際ありうることだ）、電車の行く方向を示した矢印かそれに類したものがないと困るのである。

⑤ 東武伊勢崎線

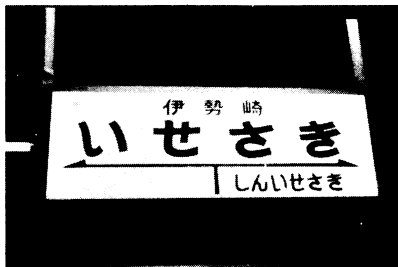


写真-3

⑥ 近鉄奈良線

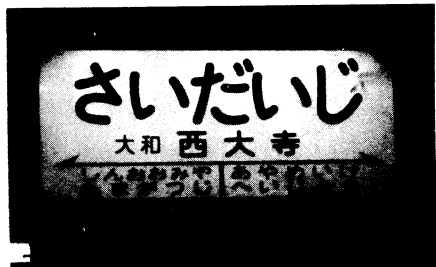


写真-5

⑦ 西武新宿線

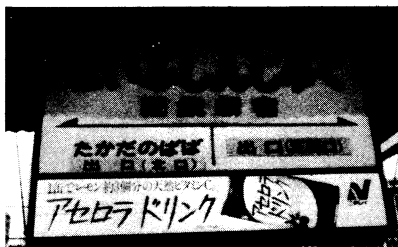


写真-4

⑧ 地下鉄丸の内線



写真-6

4.一(1) 各文字の上下の順序 (左が上段 — 右が下段)

- ㊦ ひらがな→漢字→ローマ字
- ㊧ ひらがな→漢字→ローマ字
- ㊨ (1)漢字→ひらがな→ローマ字
(2)漢字→ローマ字／ひらがな
- ㊩ 漢字→ひらがな→ローマ字
- ㊪ ひらがな→漢字
- ㊫ 漢字→ひらがな→所在地名
- ㊬ (1)漢字→ローマ字
(2)漢字→ひらがな
- ㊭ ひらがな→ローマ字
- ㊮ ひらがな→漢字→ローマ字→所在地名 注(1)
- ㊯ ひらがな→漢字→ローマ字→所在地名
- ㊰ 最も古いタイプ：ひらがな→漢字→ローマ字→所在地名
次に古いもの：ひらがな→漢字→ローマ字
新しいもの：ひらがな→漢字
- ㊱ 旧：ひらがな→漢字
新：漢字→ローマ字
- ㊲ ひらがな→漢字→ローマ字

注(1) 所在地名を示さない駅もある。

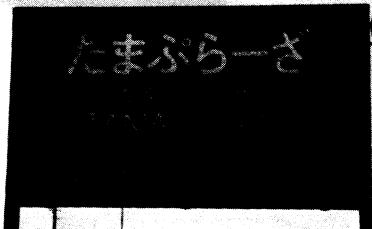


写真-7

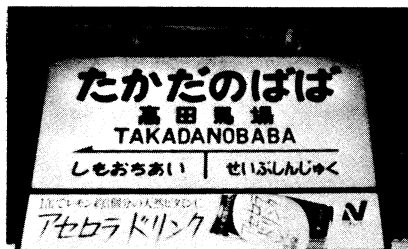


写真-8



写真-9



写真-10

田園都市線にはカタカナ語がひらがなとまじっているものがある(写真7)。また、原則としてローマ字表記のない西武新宿線で、高田馬場駅だけは例外で、全大文字のローマ字が見られる(写真8)。これは旧国鉄山の手線乗り換え駅として、国鉄に倣ったのだろうか。同様に、東武伊勢崎線も原則としてローマ字表記はないが(写真3)、北千住駅と東武動物公園駅にだけみられる(写真9、10)。

外国人で漢字もひらがなも読めない人はどうするのだろうか。

旧国鉄線である中央、埼京、京浜東北の各線には、最下段に所在地名が入れているが、同じホームでも所在地名を入れないものもあるし(写真12、26)、中央線三鷹駅、神田駅は所在地名のない表示のみである。

なお、京浜東北線の場合、厳密には目下3通りのタイプの表示板が使われており、所在地名の入っているのは、その中で最も古いタイプであり、その数は少な



写真-11



写真-12



写真-13



写真-14



写真-15

い。最も新しいタイプを使っている駅が大宮、有楽町、新橋で（写真13）、残る駅は古いタイプからローマ字の消えたものである。JR各線については、所在地名をはずす方向に進んでいることがわかる。

新旧のタイプが現在まじって使われている点では、近鉄奈良線も同様である（写真14、15）。しかし、近鉄奈良線の場合はローマ字の位置が上下に移動したにすぎない。同じく関西の路線であるが、阪急宝塚線の3駅には、それぞれ縦書きと横書き2種の表示板があるのはおもしろい。縦書きの方が旧タイプで、横書きの表示板には青や赤など色が入ってハイカラである（写真16、17）。



写真-16



写真-17

4.一(2) 各文字の大きさの順

- ㊦ ひらがな>ローマ字>漢字
- ㊧ ひらがな>ローマ字>漢字 注(1)
- ㊨ 漢字>^{ローマ字}ひらがな (同じ大きさ)
- ㊩ 漢字>ローマ字>ひらがな
- ㊪ ひらがな>漢字
- ㊫ ひらがな>漢字>所在地名
- ㊬ ①: 漢字>ローマ字
②: 漢字>ひらがな
- ㊭ ひらがな>ローマ字
- ㊮ ひらがな>ローマ字>漢字>所在地名

- ㉠ ひらがな＞ローマ字＞漢字＞所在地名
- ㉡ 旧：ひらがな＞ローマ字＞漢字
新：ひらがな＞漢字
- ㉢ 旧：ひらがな＞漢字
新：漢字＞ローマ字
- ㉣ 旧：漢字＞ローマ字
新：ひらがな＞漢字（同じ大きさ）

ひらがながいちばん大きい文字で書かれているものが多く、スタイルをかえるところでは、漢字優先からひらがな優先へと変わっている。

ただし、㉠近鉄奈良線は新タイプのものは漢字とローマ字だけで、旧タイプにあったひらがながなくなっている。これでは小学校低学年以下の子供はよめないことになる。

注(1) 写真－7の田園都市線の駅名では漢字は一字も使われていないが、この線には「宮前平」、「青葉台」など漢字が使われている駅も多い。

4.－(3) 次駅を示す文字の種類

- ㉠ ひらがな
- ㉡ ひらがなとローマ字
- ㉢ 漢字
- ㉣ ひらがな
- ㉤ ひらがな
- ㉥ ひらがな
- ㉦ 漢字とひらがな／漢字とローマ字（写真 18、19）
- ㉧ 漢字とローマ字
- ㉨ ひらがな
- ㉩ ひらがなとローマ字
- ㉪ ひらがなとローマ字

- ① 旧タイプ ひらがな／新タイプ 漢字
 ㊦ 旧タイプ ひらがな／新タイプ ひらがなとローマ字

また、ここでもひらがなだけ、漢字だけの線があるが、ひらがな、漢字の読めない外国人旅行者に次駅は知らせなくてもよいとの考えであろうか。㊦㊧では、ここでも子供は次の駅がよめなくていいと考えられているようだ。

写真 18、19 に見られるように、地下鉄丸の内線は全駅に 2 通りの表示板がみられる。即ち、漢字ひらがな板と漢字ローマ字板であり、外国人利用客も多い東京都心を走っている路線として適切な処置だと思う。



写真－18



写真－19

4.-(4) ローマ字表記について

1. ローマ字の種類	{ ヘボン式 日本式 訓令式	2. 活字体のうち	{ 大文字 小文字
3. 分かち書きの有無	4. 特殊音の表記	{ お段長音の符号 撥音ㇿ 促音ㇿ	など

- ㊦ 1. ヘボン式 2. 全て大文字 3. あり
 4. 長音「ー」／ㇿ→「N」、但し、Mの前で「M」に。
 ㊧ 1. ヘボン式 2. 全て大文字 3. あり

4. 「ー」／㊦→「N」、但し、Mの前で「M」に。
- ㉔ 1. ヘボン式 2. 頭のみ大文字、あと小文字
3. なし／1部あり 4. 長音符号なし／㊦→「n」
- ㉕ 1. ヘボン式 2. 頭のみ大文字、あと小文字 3. あり
4. 原則としてなし／㊦→「n」／㊧→その前の子音を二つ重ねる
- ㉖ 1. 原則としてなし / /
4. / / /
- ㉗ 1. (2駅にのみ) ヘボン式ローマ字あり 2. 全て大文字
3. あり 4. 「ー」と無印の二通りあり／㊦→「N」
- ㉘ 1. ヘボン式 2. 頭のみ大文字、あと小文字 3. あり
4. 「ー」／㊦→「n」／㊧→前の子音を二つ重ねる
- ㉙ 1. ヘボン式 2. 全て大文字 3. あり
4. 「ー」／え段長音「EI」
- ㉚ 1. ヘボン式 2. 全て大文字／頭のみ大文字、あと小文字
4. 「ー」／㊦→「N」または「n」
- ㉛ 1. ヘボン式 2. 全て大文字 3. あり
4. 「ー」／㊦→「N」、但し、Mの前では「M」に。
- ㉜ 1. ヘボン式 2. 全大文字 3. あり
4. 「ー」／㊦→「N」、但し、Bの前で「M」に。
- ㉝ 1. ヘボン式 2. 全て大文字 3. あり
4. 「ー」／㊦→「N」／㊧→その前の子音を2つ重ねる
- ㉞ 1. ヘボン式 2. 全て大文字 3. あり
4. 「ー」／㊦→「N」

まず字体に関してみると、やや活字体文字が多い。但し、両方のタイプが入りまじっている線もある。中央線がそうであり、古い方は全て大文字、神田と三鷹の両駅にのみ新しいタイプが入っており、それは頭文字だけが全大文字、あとは小文字のタイプである。

分ち書きの有無では、京王線と埼京線を除いて、分ち書きにするべきとこ

ろは「一」で分けて書かれている。京王線と埼京線の2線は分かち書きのある駅とそうでない駅が混在している。たとえば、「MINAMI-YONO」では分かち書きされ、「MUSASHIURAWA」では分けられていない。なお、京王線の場合は同じ1つの駅ホーム内にさえ、分かち書きのあるものとないものがみられる(写真20、21)。

ローマ字の表記についてもいろいろなことが言える。原則的に小田急線はいかなる長音記号も取り入れていないかと思われたが、1駅だけ例外的に「h」を加えて、お長音であることを示しているところがある(写真22)。1駅だけ特別扱いである。撥音㊦の表記に関しては、いずれもヘボン式に「M」「N」「B」の前で「M」にするなど忠実である。但し、近鉄奈良線では「N」表示のものもみられて、その点で統一がない。次の3枚の写真(23、23a、23b)は「M」表記で、写真14、15で見た「GAKUENMAE」は「N」表記などである。なお、同じ線で、どうも一度「N」で作ったものを、後日、わざわざ「M」に入れかえたと思われる駅の表示板を見つけた。近鉄奈良線・学園前駅のホームの例である(写真23)。白黒の写真ではわからないが、実はこの「UEHOMMACHI」の「O」と「M」の間の「M」だけ黒色で他の文字は紺色である。文字の大きさもやや小さくて、あとから書き直したことは明らかである。

これなど、表示をする側に迷った形跡がみられておもしろい。

以上のように、ローマ字表記については、特殊音の表記のしかたにばらつきがある。とりわけ、お段長音、撥音の表しかたが一定しない。そのことは、いずれも昭和29年の内閣告示「ローマ字のつづり方」自体に問題があり、それがそのまま、私たちの周りのローマ字表記にも混乱を生む結果をもたらせている。即ち、明治17年のヘボン式に始まった我が国のローマ字表記の歴史をみると、2年後の明治19年に、ヘボン式では日本語を適切に表記できないとして、羅馬字会の総会で日本式ローマ字が採用され、以後、両者が対立し混乱を来たしている。長い年月にわたるその解決策として生まれたのが、昭和12年の内閣訓令による「ローマ字のつづり方」であり、訓令式の採用であった。が、それも終戦と共に連合軍最高部指令によりヘボン式が復活採用され、それが現行の「ローマ字のつづり



写真-20



写真-21



写真-22

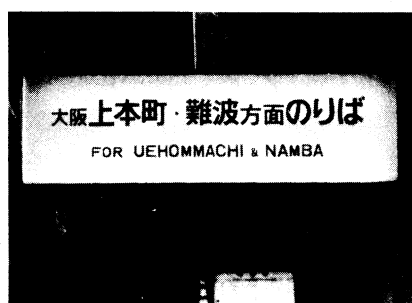


写真-23



写真-23a



写真-23b

方」が出される昭和29年まで、世に通用してきたわけである。29年の内閣告示では第1表、第2表のうち、訓令式を第一表に掲げて、できるだけ訓令式を主にして単一化を図ろうとしていることがわかる。それにもかかわらず、その前がきの中で長音の表わし方について「母音の上に「ー」または「^」記号をつけて表わす。また、母音を2つ重ねて表わす。あるいは、「h」をつけて表わす」とある。さらに、そえがきの第5項として、「長音の表記については自由とする」とまで述べてある。こういった経過を見てくると、調査結果に現れた㉠の京王、㉡の小田急両電鉄会社にも、そえがき第5項に倣っての上で長音記号をつけずに長音に読ませようという明確な方針があるらしいことがわかる。但し、小田急に関して言えば、それならそれで、「Sagami-ohno」などと1駅だけ特別扱いに長音を示す工夫をしなくてもよいだろう。

4-(5) 送りがない「が」「ガ」「ケ」または、「つ」「ツ」の有無

- ㉠ 該当駅なし
- ㉡ 「が」 (例) 藤が丘／市が尾／梶が谷 (写真24)
- ㉢ 「ケ」 (例) つつじヶ丘／聖蹟桜ヶ丘 (写真25)
- ㉣ 「ケ」 (例) 新百合ヶ丘／向ヶ丘遊園
- ㉤ 該当駅なし
- ㉥ なにもつけない (例) 越谷 (写真27)
- ㉦ 「ケ」「ツ」 (例) 市ヶ谷／霞ヶ関／四ツ谷 (写真28)
- ㉧ 該当駅なし
- ㉨ 「ケ」「ツ」 (例) 市ヶ谷／阿佐ヶ谷／四ツ谷 (写真26、28)
- ㉩ 該当駅なし
- ㉪ 該当駅なし
- ㉫ なにもつけない／「ケ」 (例) 雲雀丘花屋敷／尼ヶ辻
- ㉬ 該当駅なし

「が、ガ、ケ」「つ、ツ」の違いは同じ線の中では統一がとれているが、線によって前者は4通り、後者は2通りの使い分けがなされている。これは駅名表記



写真-24



写真-25



写真-26

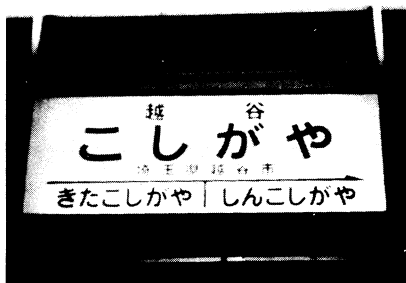


写真-27

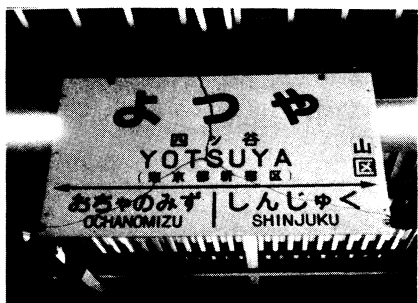


写真-28

だけの問題でなく日本語全体として整理する必要のある問題である。発音は同じだから「-GAOKA」「-GAYA」ときいて、それを漢字まじりの表記にすると、どれにするか、どう決めるのだろうか。また、「ケ」をみてだれでも「GA」の音だと読んでくれるだろうか。

同じ地名でも駅名と町名で表記の異なる場合がある。丸の内線は「霞ヶ関」だが町名は「霞が関」である。その地区の人しか正しく表現できないというのは日常の問題としても困ったことだと思う。耳できいてすぐ文字に表わせるのが、ことばと文字の最も好ましいありようなのだから。

最近、当研究会員の住所表示で「ケ」から「が」に変わったところがある（座間市相模ヶ丘→相模が丘）。このように駅名も町名も、二語を結ぶ「GA」の音の表記は発音どおり「が」に統一したらどうだろう。

4.-(6) 送りがな「の」「ノ」の有無

- ㊤ 該当駅なし
- ㊦ 「の」 (例) 溝の口 (写真 29)
- ㊧ 該当駅なし
- ㊨ 該当駅なし
- ㊩ 「ノ」 (例) 鷺ノ宮 (写真 30)
- ㊪ なにもつけない (例) 鷺宮 (おしのみや) (写真 32)
- ㊫ 「ノ」 (例) お茶ノ水／丸ノ内
- ㊬ 該当駅なし
- ㊭ 「ノ」 (例) 御茶ノ水 (写真 31)
- ㊮ 該当駅なし
- ㊯ 該当駅なし
- ㊰ 該当駅なし
- ㊱ 該当駅なし

㊩の西武新宿線はホームの表示板は「鷺ノ宮」であっても、駅構内に立てられた各種の広告看板は「鷺の宮」である。

東武伊勢崎線「鷺宮」は表記には「の」も「ノ」も入らないが、読み方は「わしのみや」である。「山手線」が「やまの手線」から「やまて線」へと変化したのも「の」が入っていなかったからと言われている。同様に「わしみや」と変わることはないのだろうか。



写真-29



写真-30

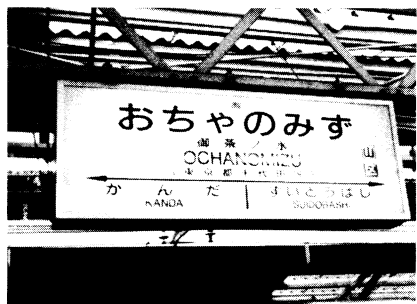


写真-31



写真-32

4.一(7) 文字のまぜ書きおよび外来語表記について

〔ひらがな＋漢字〕

- ㊦ すずかけ台
- ㊧ つくし野／つきみ野／あざみ野
- ㊨ せんげん台

〔外来語を含む表示〕

- ㊩ (TAMA-PLAZA たまぷらーざ) (写真7)
- ㊪ (Yomiuri-land-mae よみうりランドまえ)
(Tama-center たませんたー) (写真34)
- ㊫ (りゅうつうセンター RYŪTSŪ-SENTĀ) (写真33)



写真-33

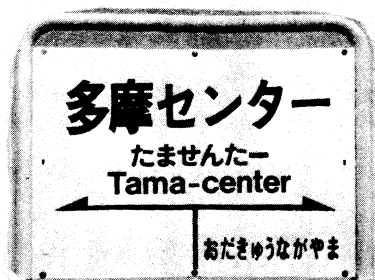


写真-34

上記以外の線には該当するまぜ書きの駅名はなかった。田園都市線は、今回調査対象にした13の路線の中で最も新しい線である。漢字だけで書かれた従来の駅名に見慣れて来た者には、田園都市線の「つきみ野」「つくし野」など、正式名称として、ひらがなに漢字を加えるという試みは新鮮に見える。この線では、「多摩」の地名もひらがな書きにしている。この点で、決してひらがなや外来語など入る余地もないような、たいへん古風な名称の多い近鉄奈良線、阪急宝塚線とははなはだ対照的である。

また、外来語で一番大きい表示に使われている文字については、田園都市線は「ぷらーざ」、小田急線も「らんど」とひらがなであるが、東京モノレールはカタカナである。(写真 34)では「センター」の読み方を示すひらがな書きとして「せんたー」と表記している。「ぷらーざ」「せんたー」の長音符号は、ひらがなでは使えないとされているものである。これは、ひらがな表記の基準に背いていることになる。それらをローマ字表記で示す際にも、東京モノレールの「SENTĀ」と外来語をそのままローマ字化したものもあり、田園都市線や小田急線の「PLAZA」「Center」と英語にもどしたものもある。

これからは、こういった外来語まじりの駅名も増えて来ることだろう。そんな駅名について好き嫌いは別として、表示に関わる担当者にとっては、さぞ苦心の要るところだろう。こういった表示のあり方に、何らかの指針が示されるべき時期が来ているのかもしれない。こうした基準外の書き方が公の場所で多くなると教育の現場では混乱が起きてくるだろう。

教師が「外来語は片仮名書きです」「ひらがなで長音符号は使いません」と教室で教えても、毎日乗り降りする駅で「せんたー」などをみた生徒は不審を抱くだろう。

以上、項目1～4についての調査結果を述べてきたが、全体を通して言えることは表示板そのものについて見ても、古いものから新しいものへと、各路線がそれぞれ検討した成果が表われ、徐々に取りかえられつつあることである。そうして取りかえられた新しいタイプの表示板としては、㊦京王線、㊧中央線、㊨京浜東北線、㊩近鉄奈良線、㊪阪急宝塚線があり、いずれもが、従来のものに比べて数倍ははっきりと読みやすくなっている点は利用客として十分に評価したい。

一方、国際化時代を迎えて漢字・かなの読めない外国人あるいはそれ相当の人々への配慮、高齢化社会を前に高齢者にもよく見えるよう文字の大きさへの配慮、線による用語の違いからくる利用者の当惑、混乱も最少限に止めてもらいたいことなど、関係者に一考願いたいことは多い。

(文責 照木)